

June 12, 2013 ウラナミアカシジミ：12 年ぶり

友人から今年はウラナミアカシジミが見られる、との情報があり、ヒメヒカゲの生息調査のあと権現ダム周回道路沿いを探索してみる。ときどきアカシジミのオレンジが舞い、高い位置にクリの花が咲く場所で、複数のヒョウモンチョウが訪れているので観察してみると、テングチョウやウラギンシジミもきている。やがて、暗い木陰からヒラヒラと濃いオレンジ色が舞い立ち、路傍木陰のイヌビワ葉上にとまる。アカシジミだろうとよくみるとウラナミアカシジミだ。マムシの多いところだが構わず笹竹の茂るブッシュをかきわけて接近。風が強くて揺れが収まらないためカメラモードでの撮影をあきらめ、ビデオ撮影に切り替える。開翅は期待できず、ほんの少しだが翅表のオレンジがのぞくシーンが記録できる。お腹の大きい♀だ。



ヒョウモンはメスグロかウラギンシジミかよく分からなく、3 個体が追飛翔する様も観察する。テングチョウが熱心にクリの花の蜜を吸う様の撮影は位置が高くて無理だ、とあきらめたとき、道路反対側で再び小さなオレンジがヒラヒラとランダム飛翔。これを追いかけると木陰となったササの葉上に落ち着くので、ガードレールを乗り越えて接近するとウラナミアカシジミの♂だ。幸いガサガサと音を立てての接近でも逃げることなくビデオ撮影に応じてくれる。「もうモデルはいいんだね」といわんばかりに場所をかえて静止した際、前翅がすでに一部かけていることが分かる。いずれにしてもアカシジミの継続発生と 2001 年以来となるウラナミアカシジミの再発生が確認できてうれしい。もっとも、最近、ヒメヒカゲの調査に専念して他の場所での観察ができていなく、2002 年から 2012 年の発生状況について何か情報があれば知りたいところだ。



June 1, 2014 ミドリシジミが棲む東播磨郊外へと遠征

ヒメヒカゲの調査途上でミドリシジミに会えたことから、その開翅姿勢の撮影を期待して東播磨郊外の生息地へとでかけてみる。ハンノキを叩いて驚かすと、ひらひらと飛び出して近くに止まるが、雲の厚い天候ではなかなか翅表を開いてみせてくれる個体が現れない。わずかに美しい緑色の



輝きを見せてくれる個体をみつけてすばやく撮影。いきなりオレンジが目に入り、よく見ると遠い位置にウラナミアカシジミがやってきている。葉っぱの上でくるくると回転してみせてくれるが遠目の撮影できれいな静止画像は得られない。ミドリシジミが開翅してくれそうにないのであきらめて帰ろうとしたとき、林縁で



ウラギンシジミらしき白が舞う。近づくとはとまったく予期していないウラゴマダラシジミ。すでに後翅の一部に傷みがみられ、きれいな翅表をみせてはくれないが撮影記録を残す。いよいよ帰ろうとする足元目の前にまたしても濃いオレンジのチョウが舞い降りる。野鳥についばまれたのか羽をひどく食いちぎられたウラナミアカシジミだ。先に見た個体に比べて鱗粉の色がかなり濃いことから羽化してまもない段階で襲われたらしい。

May 30, 2015 通いなれたフィールドで初めて出会うチョウ

ヒメヒカゲのトランセクト調査過程で、予期せぬゼフィルスに会えて感激。ギフチョウの生息雑木林では秋に二度実施する不要常緑樹として伐採対象とするツゲが、この調査ルート上で花を咲



かせており、よく観察するとウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* が確かにこの花に口吻を伸ばして吸蜜をしている。

June 7, 2015 ミドリシジミが棲む郷へ

来週、台湾の Facebook 友が日本のチョウとの出会いを求めて関西を訪れるというので、ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* の棲む郷に案内しようと下見に行き、そのオス個体の映像記録を撮った後昨年の訪問時には踏み込まなかった灌漑用水池の小道へと入ってみると、路傍の葉陰部分でウ



ラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* が休憩中。オレンジ色は鮮やかだが、右前翅がかなり傷んでいる。最後に叩いたコナラにも小型のウラナミアカシジミがいて、もっと下に降りてきてと枝を揺らすと路傍の葉上まで降りてくれる。